と判断される状態を指している。

ところで「日常生活動作などの支援を必要とする人」と「日常生活動作などの支援を必要としない人」の施設入所期間の差は認められなかった。

施設入所期間と日常生活動作などの支援の必要性の有無との相関関係は見当たらなかったということについては、その要因が何なのか、是非究明しなければならない課題である。

これらのことを踏まえた上で、利用者の希望に沿った支援、生活の質を高めるための支援、各種の制度や社会資源を活用した支援等を通じて利用者の自立を進めるための個別支援計画を考えることが必要である。

端的には、地域生活への移行を指向したプログラムが要請されている。

4．地域生活移行を指向した支援プログラム

必要とする支援を受けながらも、知的障害者がその主体性を確保して、自己決定権と選択権が最大限に保障されている生活状態を自立と考えることができる。そうであるならば障害者自身が自己決定に基づき、主体的に生活が営めるような支援が施設に求められている。

地域で生活する知的障害者の自立生活支援や在宅支援で行われている生活支援プログラムをみると、自己認識・障害の理解・コミュニケーションの方法・社会資源に関する知識・金銭管理・安全と健康管理・交通機関利用方法などの領域の生活訓練を実施している。特に、これらの支援プログラムの中で、自分の思いや感情を的確に相手に伝える技術の重要性が指摘されている。

施設における支援においても、このような地域での生活支援プログラムを先行的にとり入れながら個別支援計画を作成し実施していくことが今後の重要なポイントになるであろう。

〈参考引用文献・その他〉

1．植田・岡村・結城編著　社会福祉方法原論　法律文化社　1997年5月30日
2．右田・上野・牧里編著　福祉の地域化と自立支援　中央法規　2000年9月15日
3．右田・山寺・白澤編著　社会福祉援助と連携　中央法規　2000年9月15日
4．レイモンド・ジャック編著　小田・杉本・斉藤・久田監訳　施設ケア対コミュニティケア　勁草書房　1999年4月20日
5．諏訪茂樹著　対人援助とコミュニケーション　中央法規　2000年9月1日
6．黒沢貞夫著　生活支援の理論と実践　中央法規　2001年2月20日
7．M・ベヴァリッジ編著　知的障害者の言語とコミュニケーション上・下　1994年4月
8．飯高・畔上・大伴・津田・山崎編著　言語発達遅滞（Ⅰ）（Ⅱ）　学苑社

2001年10月25日
9．アメリカ精神遅滞学会（AAMR）編　茂木俊彦監訳　精神遅滞【9版】
日本文化科学社　2000年4月
10．大石益男編著　コミュニケーション障害の心理　同成社　2000年4月30日
11．「施設変革と自己決定」編集委員会編　権利としての自己決定　エンパワメント研究所
2000年11月15日
12．岡堂哲雄編著　看護と介護の人間関係〈現代のエスプリ〉別冊　至文堂　1997年10月10日
13．田中キミ子著　高齢者とのコミュニケーション・スキル　中央法規　2001年9月10日
14．手塚直樹他　知的障害者施設における援助技術の体系化に関する研究　平成11年3月
15．心身障害者福祉協会編　利用者への支援についての基本姿勢　2001年11月28日
16．心身障害者福祉協会編　平成１１年度 実践事例集　2000年9月11日

付　事例の概要

事例内容一覧　問8－1　特別な行動障害がない場合　50事例

番号	標題	ねらい　工夫	結果
1	こだわりのある行動を先読みする対応	要求時、大声を出す→自傷　自閉症　意思の理解方法 行動分析　予定の提示	予定を示すことで、大声、自傷は減少
2	簡単な言葉による伝達の理解	言葉の理解ができない　話の内容を動作と関連付ける 言葉かけを多くする	話し掛けと動作の関連付け　言葉で名前を呼ぶと同時に動作を行うと理解できる
3	言葉以外でのコミュニケーション 50音表でのコミュニケーション	日記をつける　普段は身振り手振り 利用者間のトラブル→職員が割ってはいる	利用者を理解しようという姿勢で、向き合う わからないことを曖昧にせず、分かるまで話す
4	言葉を使ってのコミュニケーションケア 構音障害→聞きなおされると文字を書く	言語療法を適用する 言葉によるコミュニケーションが好ましい	母音が発音できるようになってきた
5	言語障害のある利用者への支援	聞き取りはできるが話せない 自分の殻に閉じこもる	自分の意思を代弁してくれる利用者ができ、安定した生活が送れる
6	言語能力の向上	声が小さく、不明瞭 発語の場面を作る　作業の挨拶　毎朝の挨拶	自分から挨拶ができるようになる
7	意思疎通の円滑化　孤立させない	中途で聴力を失う　他者とコミュニケーション取れず 朝夕のホームルームで情報提供する　筆談ジェスチャー	筆談やジェスチャーでのコミュニケーションを取り入れると、情緒的に安定し、意思疎通良好
8	話し掛け　興奮　パニックの軽減	話し掛け　受容と承認　賞賛　傾聴　カウンセリング 録画・録音	笑顔でのおしゃべりが多くなる
9	よりストレスのないトイレ誘導	生活の流れをカードに作り、流れを誘導する 名刺大で、白黒の単純な「ピクトグラム」の絵カード	カードの提示で、生活の流れがスムーズになる
10	人と楽しく関わりをもつ 他害　他者の気を引くための他害	注意喚起的行動　他利用者の髪を引っ張る行為は、職員との接触を持つ方法	髪を引っ張る行為→「遊びたいんだよねー」と言葉をかける　対人関係が拡大する
11	コミュニケーションの困難な方とのコミュニケーション　マカトン法	言葉が出ない　意思表示は、他者の言葉にうなずく 職員がマカトンサインと音声言語	マカトンサインと口を動かすことが増えてきている
12	コミュニケーションを作るための環境作り 生活範囲の拡大　自閉傾向　集団行動拒否	生活範囲を広げ、経験領域を拡大する 特定の職員との信頼関係を築く	攻撃的行動がなくなる　パニック時でも、マンツーマンではなすことで落ち着く
13	自然に囲まれた屋外作業で自閉を克服する	3歳から14歳まで児童施設　便・尿垂れ流し状態　人を避ける　愛情のある濃密な関係が必要　14年経過する	人を穏やかな表情で受け入れる　職員もゆとりをもって接する　生活範囲の拡大
14	言語障害のある利用者の健康管理 健康カレンダー	便秘で排便確認ができない　腸閉塞 カレンダーに○・×で排便を記入	カレンダーをつけ4年が経過する 記入することが伝えることとの理解ができる
15	精神状況に即した対応 躁鬱状態	躁状態のときは多動・多弁・突発的行動 病的と捉えず、一番快適な対応を考える	自主的行動は誉める　支持や言葉かけは、絵や写真で示す　マイナス刺激を避ける
16	身振り・手振りでの表現	周りの状況が理解できず、興奮し自傷がある　興奮時は職員とマンツーマンの関係で対応する	言葉かけで気分転換可能 表情がよくなる

事例内容一覧

番号	標題	ねらい　工夫	結果
１７	固有なペースで、他者との関わりが少ない	ペースが合わないと興奮し暴れる　日中活動は読書･TV が中心　興味を中心にして、領域の拡大を図る	誉める対応で､職員との会話が多くなる　所外実習を取り入れると、責任感がめばえ、やる気が見られる
１８	問題行動に対する認識の再構築 コミュニケーションの機会　手段の拡大	植木の受け皿に固執　本人からの要求や意思表示はほとんどない　ジェスチャーを利用し相互に理解	能動的な要求や意思表示が多くなる
１９	要求の表出 自主性の尊重	何事にも受動的で、困難な事柄に直面すると泣きわめく 本人の話をよく聞く　本人の出番を作る	たとえば､当番などで自分が認められていることをお実感させると、行動が改善される
２０	標題なし 余暇の援助	自閉的傾向　こだわり衣類を捨てる、自傷　対人関係の確立困難→対人関係の援助　ジグソーパズル	行動特性を理解した上での対応→落ち着きが生じる
２１	標題なし 徘徊	本対象者を含め数名の所在不明が頻発する人がいる　玄関に施錠をする　外に出たいの表示には答える	ジェスチャーを職員と利用者が相互理解できるようになる
２２	標題なし 異食	不眠　多動　異食　弄便　生活のリズム 異食対象物の管理　役割　当番	特定職員との人間関係を核に
２３	身振りによるコミュニケーション 独特な身振り	所在不明　テレビ　ビデオ　衣類のタグの固執 生活の流れ･リズムの確立　独特の身振りが見られる	独特のサインを読み取り対応することで､失禁などは減少　対人関係も拡大する
２４	標題なし 生活の見通し	ADL 自立　暴力行為は、その日の予定や見通しができない事に起因　ボードにその日の予定と写真も使う	見通しが持てることで､精神的安定につながる
２５	標題なし 場面緘黙	父以外とは話をしない　日課に参加しない　心理機制 信頼関係の中で能力を引き出す　作業参加	筆談でさまざまのことを訴える 行動範囲広がる　食事自分で食べるようになる
２６	その人らしい生活 徘徊	返事を求めると、口をパクパクさせる　いたずらは､声をかけてもらえたい､誉めてもらいたい	愛情欲求を満たすことで、いたずらは減少
２７	コミュニケーションの充実により生活が主体的になった事例	自分の思いを行動化する→満足→新たな意欲・思い 意思をくみ取るためにアンケート方式をとる	自主的行動が増える 笑いながらのコミュニケーション
２８	拒否的行動の改善	特定の職員の勤務日に、食事拒否、話さず、体を硬直させ拒否する　受容し、自信をつけ、楽しみを多くする	生活に積極性がでる
２９	集団からの離脱	行事前後は不安定になる　集団から離脱 マカトン法　居室に週間･月間スケジュールを提示	マカトン法は有効　スケジュール表は不安解消に結びつく　身振り手振りのコミュニケーションが定着
３０	標題なし 自閉傾向	自分の意思を言葉にすることが難しい 興奮の原因の分析　興奮時同じ対応をすると落ち着く	単語だが､なれた人･なれた状況であれば､自分から言葉を発する
３１	日常生活に動きを	園の生活リズムになじめず､布団の中で泣き叫ぶ 笑顔での日常的援助をする　ADL 能力向上をねらい	ADL の自立部分が多くなると、行動が改善する
３２	他の人と会話ができるようになる	会話が一方的 こちらの言い分もゆっくりわかりやすく話す	答えが返ってくるようになる

事例内容一覧

番号	標題	ねらい　工夫	結果
３３	身振りから文字や言葉を理解し、意思伝達が可能になった事例	職員側からの伝達はうまくいかない 文字から言葉の理解ができるよう段階を踏む	マグネット文字と絵を組み合わせるなどの方法でコミュニケーションを取る
３４	コミュニケーション支援による問題行動の軽減	本人の意思に反すると乱暴行為　乱暴はコミュニケーションを求めるサイン	職員言葉かけに納得して行動する 作業拒否はない
３５	金銭管理の対応について 自己責任	情緒不安定でパニック・乱暴　話が理解できない わかりやすい言葉を何回も反復　２万円の自己管理	２万円の自己管理と自己責任で自信を持ち、行動改善
３６	コミュニケーション手段の獲得 ジェスチャー	場面の切り替え困難　言葉のチョウダイと手を重ねることを組み合わせる→要求のサイン	指差しチョウダイが可能となる サイン獲得ができると生活場面の拡大
３７	コミュニケーションスキルの獲得	生活が受身　本人を捉え直す　自分から「要求を絵に描く」サイン	「絵」サインを結びつける要求方法が確立 月間サービス計画も本人参加で作成
３８	電子手帳を用いたコミュニケーション 自閉傾向ある	チラシの裏や紙切れを使い、筆談が主な手段　ホワイトボードで、職員側から質問し、答える形を取る	質問に答えられるので、電子手帳のステップ
３９	標題なし　自閉症候群　聴覚障害　GH 生活 感情的コミュニケーション	週１回の手話教室に通う 身振り・手振りで１日の出来事の報告	援助者が表情や態度を見て何を考えているか察する
４０	言葉かけを中心とした意思交換による興奮・固執の減少	寮舎でのトラブルを作業場面に持ち込む 作業目標を決める	多少のトラブルがあっても、作業から帰ることがなくなった　騒ぐことも減少
４１	ワープロによる自己表現	言語能力は日常生活で何ら不自由ない　人間関係がうまくいかない　ワープロクラブに関係拡大のために入る	ワープロで家族に手紙を書く事やワープロを使って職員の手伝いをする事が自信につながった
４２	作業場面での意見や要望のくみ取り	意思伝達にジェスチャーを使うが、うまく伝わらずあきらめる　職員は、絵・写真を併用し伝える　補助的に黒板	絵カードの工夫でかなり意思疎通できるが、本人があきらめる場合もある
４３	難聴がある高齢ダウン症者 対人関係拒否傾向	刺繍作業による自己表現　自分で図案を考える→職員は直す事がないため肯定的になる　本人は創作意欲高まる	寮でトラブルがあっても、作業をすれば、落ち着くことが多い
４４	生活と労働の充実 自閉傾向ある	場面切り替えできず、突発行動→見通し・発達に即した課題　はさみと牛乳パック→作業の具体的イメージ	日中の居場所や役割を獲得する 顔写真で出席をとる
４５	難聴者のコミュニケーション支援	孤立傾向　状況理解が乏しい 情報の視覚化	写真などで情報を視覚化することは、効果的
４６	会話ができるように支援する 自閉症	パターンが崩れると、パニックとなる 生活の流れ、作業時間を分かりやすくする	GH の世話人が変わってから表情が明るく、言葉も出る
４７	遊び 関わり	カセットを終日聞き、対人交流がない　一人遊び=こだわり=自分の世界　名前を呼び抱きしめる	名前の呼び声に反応を示す
４８	言葉の理解に比較して、表出ができないコミュニケーション支援	写真カード→活動→おしまいカード カードの効果的使用	幼児の事例 マンマカードで、ｍａｍａの音が出る

事例内容一覧

番号	標題	ねらい　工夫	結果
４９	ＡＤＬ支援	児童施設から成人施設へ移行　児童施設で６から７歳の ADL 指導しか受けていない　ADL を職員と一緒に行う	着脱は１年、排泄時の着脱は５年かけてできる 排泄そのものは、現在も継続
５０	衣類への固執	夜間２時頃起き徘徊　汚れた衣類への固執 美容拒否　衣類を職員と一緒に整理 → 関係できる	汚れた衣類への固執は軽減する 特定の美容師により理容ができる

事例内容一覧　問8−2　　特別な行動障害がある場合　　50事例

番号	標　題・キーワード	ねらい・工　夫	結　果
1	標題なし 手振り・身振りで訴えるが、理解できない	手振り・身振りを理解する→精神的安定と自傷の軽減 観察に基づき手振りの理解をする	理解により不安定な原因を取り除かれた
2	カード提示によるコミュニケーション確立の事例　　日課の見通し	環境設定により行動障害の軽減　アセスメント→個人プログラム設定→モニタリング	パニックの極端な減少 自立的行動場面の増加
3	会話への第一歩 単語から文章へ	意思が伝わらない→興奮・自傷・不眠→言葉かけ→更に興奮　小さな声で、「静かに」の働きかけ	相手の話も聞けるようになる 医療的対応も改善の要因
4	問題行動への援助 夜型から昼型への生活リズム	リズムを帰るためにドライブ・木工作業を取り入れると、昼型となる　言い分を聞く→伝えるように努力	文字・絵・写真・スケジュールボードを使いコミュニケーションを深めると問題行動は軽減
5	標題なし　自閉症 精神不安定　母親以外対人関係とり難い	観察→伝わらない(パニック)→体調不良(睡眠不足)→環境不安(騒がしさ・高い声)　構造化	精神安定は図られるが、要求をとおすための意識的なアッピール行動がでる　社会的ルールが課題
6	強度行動障害を持つ利用者のコミュニケーションスキルの獲得　TEACCHに基づく支援	電気器具の破損、ボルトの異食などがある。生活リズムの確立をねらう。	日課の構築、構造化を行い、活動がルーチン化する。支援を統一化することで効果があがる。
7	標題なし 言葉が出ない　生活の流れが理解できない	コミュニケーション方法の確立 24時間体制で職員を張り付け観察	職員からの強い指示がパニックにつながっていた 援助の統一性が効果を生む
8	言葉かけの工夫	物品購入要求が不定期にある、要求が満たされるまで、情緒不安定　要求に応じる曜日を決めて対応	買い物の日が決まると落ち着く
9	言語でコミュニケーションの図れない事例 自閉症　聴覚障害　TEACCH	反社会的行動を軽減　1日の生活を写真に撮り、生活の流れを理解　地域での買い物→欲求充足・ルールを学ぶ	生活リズムが確立する　安定化が図れる
10	排泄サインの確立	徘徊による所在不明と失禁　便を2週間に一度の外泊まで我慢するか、フロアにする　トイレを出て直後に失禁	排泄のサインを見落とさず、トイレでの排便をさせ成功経験を多くする　排泄は洋式便器で統一
11	暴力行為の原因・誘因の追求 気持ちの表現方法　環境設定	情緒の安定　本人が責任感、仕事としての自覚が持てるような作業を準備　職員はいつもあなたを見ている	暴力行為は減少傾向　落ち着ける空間・取り組める作業・普段のコミュニケーションが要因
12	不安の軽減	本人の側からの言葉の理解　大声や自傷をしない約束 わからないことは、「わかりません」と答える	時に大声をあげるが、大きな自傷はない
13	写真や絵による情報提供	手話・指文字などは不可能なため、身振り 今日の予定などを情報提供する	情報発信は無い 問題行動は減少する
14	標題なし　　聴覚・言語障害 措置変更以降、体重減少・食事拒否ある	顔色や表情で体調などを判断する　職員と散歩、着替え援助などの場面をとおしコミュニケーションを図る	落ち着いて生活できている
15	環境の変化に対応できない利用者の支援 マンツーマンの対応	集団行動とれない　弄便　朝食後トイレにすわり排便を促す	朝食後の排便が定着すると弄便などは無い 集団行動可能となり、小旅行にもいけるようになる
16	標題なし 生活の流れを確認しなければ、不安	予定変更時パニック　本人がよく確認する事柄を絵カードにする　職員が同じ対応をする	絵カードで流れの自己確認できる　自主的行動ができる

事例内容一覧

番号	標　題・キーワード	ねらい・工　夫	結　果
１７	標題なし 興奮　自傷　尿失禁　脱衣　放便	一日のパターンを崩さない　居場所(ソファーの設置)を作る　乗馬療法　伝達方法を通してのボディタッチ	自傷・興奮の軽減　ソファーに座ると機嫌が通い放便無くなる
１８	標題なし 自閉症　人の物を壊したらセロテープで修理	パニック　収集癖　自我を育てることに重点をおく 一語一語ゆっくり話し、身振りも併用	カレンダーを見て質問するなどのコミュニケーション行動がみられる
１９	標題なし 月末のカレンダーめくりにこだわる	他利用者のカレンダーめくりで、他害　栄養ドリンクのビンに固執→所在不明　トラブル軽減	所在不明に関しては、説明することで、ある程度理解できた
２０	コミュニケーションから精神的安定を図る 他者に受け入れてもらう	他者とのコミュニケーションがうまくとれず、生活圏が拡大しない　笑顔での対応が安定につながる	洗濯物整理を役割に位置付けると落ち着く
２１	標題なし 自閉症　構造化　環境作り　援助方法	TEACCH　行動観察を実施→構造化　指差しサインで、行動を導く	改善の余地はあるが、今後、変化する本人に見あつた援助やアプローチを考える
２２	音楽療法による情緒安定 歌　音楽　感情表現の乏しい重度者を対象	月２回の音楽療法で情緒安定し、粗暴行為の減少　仲間意識を育て、感情表出を図る	音楽療法に積極的に参加し、意欲的に取り組む 興奮かみつき減少する
２３	スケジュールの予告 コーヒー　スケジュールボード	口に入れられる物は何でも入れる　クレゾール・針・乾電池　マンツーマン対応	スケジュールボード導入後は、職員のマンツーマン対応は必要とせず、落ち着く
２４	幼児性から脱却し大人としてのコミュニケーションの方法を身につける　過保護	意思交換が困難　ひらがな筆記での説明　家族を含めた対応　特別扱いをしない	職員が自分に目を向けないと怒るなどの行動が無くなる
２５	好ましいコミュニケーションの手段を得たことでヒステリー発作が改善された事例	ほとんどしゃべらない　てんかんではなくヒステリー発作とわかる　要求語や挨拶を教える→人間関係深まる	言葉を発し、要求・訴え・挨拶ができる ヒステリー発作もみられない
２６	情緒の安定（コミュニケーションの確立） 聴覚障害　トラブルのキーマン	要求が通らないと自傷・他害　マカトン法を応用したコミュニケーションが取れる　サインを決める	全職員がサインを受け止められるようになる→格段に落ち着く
２７	自己アッピール（自分なりの表現を引き出す） 書道	部屋に閉じこもる　書道に取り組み、生活場面で積極性が芽生える　クラッシックを聞きリラックス状態で書字	書道活動で職員・仲間から認められる　うれしさが成長のきっかけ
２８	標題なし 安心感	放尿・他害・引き倒し・蹴り・不眠など→先の見通し無く不安状態と考える　生活場面の待ち時間	事前に情報を提示し、予定の変更などに対応する 外来者などは不安となるので、事前に言葉をかける
２９	コミュニケーション支援に関する取り組み 筆談による意思交換　信頼関係の構築	衝動的興奮→こだわり一部容認・見通し・職員の共通認識 担当が中心になり意思をくみ取る　意思伝達	こだわりを受容的に捉える　こだわりの対象が一部拡大する
３０	行動障害の改善 対人行動障害	他者への暴力時は、強制的な対応を避けた。握手などをしながら予定を説明する。自主性を尊重する。	メガネをした男子職員の顔面たたき、女子職員への攻撃がある。散歩などの集団行動がみられる。
３１	徘徊	徘徊は、居場所がないためと考えられた。　落ち着ける場所を作ることや職員と一緒の時間を多くした。	自分が落ち着ける場所にいる時は、「外に行かない時間」ということが理解できた。
３２	かみつき行為の改善	他利用者のかみつきが、４から５回/月みられた。 人をかんではいけないことを繰り返し説明する。	かみつきは減少するが、物を壊すことが増える。

事例内容一覧

番号	標　題・キーワード	ねらい・工　夫	結　果
３３	生活 激しい他害行為	安定剤の服用でパニック行動が抑制される。安定した生活リズムが確立した。ＡＤＬの指導を継続する。	生活が安定したため、ＡＤＬの習慣形成のトレーニングの取り組みが順調に進む。
３４	対人関係の難 生活の不満	トイレの閉じこもり、頻尿、特定な利用者への攻撃がある。居室変更などの環境調整と作業参加で気分転換を図る。	特定利用者への攻撃は減少傾向にある。 閉じこもりも、10 分から 15 分で解消する。
３５	粗暴行為と生活リズム	感情爆発し、破壊・暴力行為、一日中ベッドでふて寝する。要因は、自分の意思をうまく伝えられない。	要求を受け入れ、受け入れられないことは、十分に説明する。
３６	こだわりのつよい利用者への対応 行動範囲と対人関係の拡大	言葉での意志疎通は可能だが、スケジュールの提示を同年代の女子が中心となり行う。	人事異動した職員へのこだわりは依然としてあるが、話を聞くという態度を示すことで、落ち着く。
３７	自閉症者とのコミュニケーション	予定や伝えたい内容を文字に書いて示す。読むように促す。言葉では納得しなくても、文字であれば納得する。	本人の要求には、文字で、実行できるか否か、期日を明示すると、トラブルが激減する。
３８	生活の構造化	自分の考えと生活の流れが僅かに違うと興奮する。 絵・写真でスケジュール提示をする。	スケジュール提示を徹底することで情緒の安定が図られる。
３９	自閉的傾向による言語発達遅滞者の療育について	単語が数語程度の能力。行動障害多発し、他人関係がない。観察を行う。信頼関係作りをする。	相手に欲求を伝える方法としての行動障害から、言葉によって伝えることを、理解をしつつある。
４０	最重度者への意思疎通を計り、情緒の安定を保つ	生活行為は全介助で、集団行動や対人関係がなく、常に単独行動をする。家族との疎遠な交流が一因となっている。	落ち着きなく、行動上の変化は僅かである。 家族の協力を求める。
４１	標題なし 重度の知的障害を伴う自閉症	生活場面でキーパソンがなく、パニックが増す。 言葉に頼らず、目で見て判断するように工夫した。	生活の見通しがある程度可能になり、生活が安定した。好ましい行動の報酬として、ボードに絵を書く。
４２	発語のない症例に対するコミュニケーション方法の模索	「キィー、アー」という発語のみ。爪を立てる、人を叩く、ドアをける行動がある。	「ちょうだい」ジェスチャーの場合、紙と鉛筆を渡し、ぬり絵ができるようにした。ぬり絵で関係ができる。
４３	コミュニケーションの工夫	他者からの働きかけに対し拒否的で、食べ物等に際限のない要求がある。了解と納得的な対応を図る。	独特な言葉を理解することで、要求や望みが分かると、コミュニケーションの度合いが進む。
４４	情緒の安定を図る	些細なことを気にする被害妄想的傾向があり、このことが引き金となり、器物破損やパニックに結びつく。	他利用者との会話場面を設定する。会話から人間関係が拡大する。情緒も安定する。
４５	強度行動障害を伴う自閉性障害者の生活支援	TEACCH を導入する。生活リズムの確立を重視する。 他害は阻止する。興奮が収まるまで対応する。	単語による指示が可能となる。社会的スキルも向上する。
４６	行動障害のある方とのコミュニケーション取り方　ボディランゲージ　言葉　表情	通所から入所する。施設になれる。便・尿失禁が多い。 尿のときの、腰を叩くサインを手がかりに交流を図る。	排泄は、付き添いで失敗はない。他害は、表情を変え痛いことを示すことを続けると減少する。
４７	コミュニケーション手段の整理による行動障害の軽減	要求が満たされないと自傷、所在不明となる。手振りで、意志を表現させた。指で○と×のサインを表現させた。	良い、悪いの確認が容易になり、コミュニケーションがより確実となった。
４８	標題なし 粗暴行為	対人場面で受容的な対応を行う。スケジュールを具体的に提示する。提示した上で納得を図ることで、改善がある。	ありがとう・すごいの言葉と同時に、抱きしめる、握手、笑顔の行動でより効果があがる。

事例内容一覧

番号	標　題・キーワード	ねらい・工　夫	結　果
４９	パニック行動の改善	対人関係を拡大し、不眠、徘徊、独語の行動障害の改善をねらう。小動物の飼育をとおし、対人関係の拡大を図る。	小動物の飼育場面で、コミュニケーションが増える。その結果、精神的安定につながる。
５０	日常生活の新たなルール作りで、コミュニケーションの拡大を目指した事例	周囲に受け入れられず、泣きわめく。集団参加のためのルールを作る。	単独行動から集団に同調した行動が可能になる。破衣、石鹸の泡遊びなどの行動障害は変化ない。

付　調査票

知的障害者施設における個別支援計画のあり方に関する研究

施　設　概　要　調　査　票

平成１３年度　厚生労働省障害保健福祉総合研究
知的障害者施設における援助システムに関する研究
主任研究者　　楠　本　欣　史
心身障害者福祉協会　理事長
（国立コロニーのぞみの園）

分担研究
知的障害者施設における個別支援計画のあり方に関する研究
分担研究者　　新　田　耕　次
国立コロニーのぞみの園企画研究部　部長

研究協力者　　玉　井　弘　之
日本知的障害者福祉協会　理事

Ⅰ．施設の概要についてうかがいます。

問１　利用形態

１．入所施設　　２．通所施設　　３．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問２　施設種別

１．知的障害者更生施設　２．知的障害者授産施設　３．知的障害者通勤寮

４．グループホーム

問３　経営形態

１．公立公営　２．公立民営（事業団委託）

３．公立民営（事業団以外の社会福祉法人委託）　４．民営　５．その他＿＿＿＿＿＿

問４　施設名

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問５　定員と現在数

定員 ＿＿＿＿＿＿＿＿名（内訳　男性：＿＿＿＿＿＿名　　女性：＿＿＿＿＿＿＿）

現在数＿＿＿＿＿＿＿＿名（内訳　男性：＿＿＿＿＿＿名　　女性：＿＿＿＿＿＿＿）

問６　利用者の状況

１．知能指数別構成

人　　数	総数	男性	女性
重度（３５以下）			
中度			
軽度（５０以上）			

２．年齢別構成

人　　数	総数	男性	女性
１８歳以下			
１８歳～２０歳			
２１歳～３０歳			
３１歳～４０歳			
４１歳～５０歳			
５１歳～６０歳			
６１歳以上			

＊６５歳以上の人数 ＿＿＿＿＿＿＿

３．利用期間

人　　数	総数	男性	女性
１年未満			
１年～５年			
６年～１０年			
１１年～１５年			
１６年～２０年			
２１年～２５年			
２６年～３０年			
３０年以上			

＊平均利用期間 ＿＿＿＿年＿＿＿＿ヶ月

II．個別支援計画についてお聞かせ下さい。

問７　利用者に関する個別支援計画の作成をしていますか

１．作成している

２．作成していない

３．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

注）「１．作成している」とお答えの場合、書式を是非お送り下さい。

問８　個別支援計画に利用者の意思を反映させていますか

１．十分に反映している

２．ほぼ反映している

３．あまり反映していない

４．全く反映していない

５．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問９　個別支援計画は、利用者（了解が可能な者）や家族の了解を得ていますか

１．利用者（了解が可能な者）と家族に説明し、両者の了解を得ている

２．家族の了解を得ているが、利用者（了解が可能な者）には了解を得ていない

３．利用者（了解が可能な者）の了解を得ているが、家族には了解を得ていない

４．利用者（了解が可能な者）と家族の了解を得ていない

５．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問10　当該利用者に関する個別支援計画に基づく支援効果の評価を行っていますか

１．評価を行っている（１．評価を行っているに該当の場合は、以下の問にお答え下さい）

　１）評価については、その基準を設けていますか（　①有　　②無　）

２．評価を行っていない

３．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

III．貴施設のコミュニケーション支援についてお聞かせ下さい。

問11　利用者全体のコミュニケーション能力（意思交換能力）の状況についてうかがいます。

人　　数	総数	男性	女性
①言葉で、コミュニケーション可能			
②言語以外の手段でコミュニケーションがある程度可能			
③コミュニケーションがとり難い			

問１２　上記問１１の②及び③の利用者に対し、施設全体としてどのようにコミュニケーションの支援に取り組んでいるのかお聞かせ下さい。

記載例：言葉のない利用者のボディランゲージ（身振り・手振り）を一覧表に整理して、職員全員が理解に努め、統一した支援を行っている。

問１３　上記問１の②及び③の個々の利用者について、個別支援計画の中にコミュニケーションに関する支援項目を設定していますか。

１．設定している。

２．設定していない。

３．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

調査へのご協力ありがとうございました。

記載者のお名前をご記入下さい。

氏　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

調査票等についてご不明な点につきましては、下記事務局にご連絡下さい。

事務局：心身障害者福祉協会　国立コロニーのぞみの園　企画研究部企画研究課
担当者　安田　知明（研究係）
〒370-0865　群馬県高崎市寺尾町２１２０－２
ＴＥＬ　027-320-1322　　ＦＡＸ　027-327-7628
e-mail　yasuda@nozomi.go.jp

知的障害者施設における個別支援計画のあり方に関する研究

事　例　調　査　票

コミュニケーションが困難な利用者（困難であった利用者） についておうかがいします。

平成１３年度　厚生労働省障害保健福祉総合研究
知的障害者施設における援助システムに関する研究
主任研究者　　楠　本　欣　史
心身障害者福祉協会　理事長
（国立コロニーのぞみの園）

分担研究
知的障害者施設における個別支援計画のあり方に関する研究
分担研究者　　新　田　耕　次
国立コロニーのぞみの園企画研究部　部長

研究協力者　　玉　井　弘　之
日本知的障害者福祉協会　理事

Ⅰ．事例対象者のプロフィール

（プライバシー関連事項は、厳重に管理保護しますので差し支えなければご記入下さい。）

問１　生年月等についてうかがいます。

① イニシャルをうかがいます。　　イニシャル（　・　）

② 性別についてうかがいます。　１．男　２．女

③ 生年月についてうかがいます（西暦）。　＿＿＿＿＿年＿＿＿月生

④ 貴施設の利用開始年月をうかがいます（西暦）。　＿＿＿＿＿年　＿＿月から

⑤ 施設利用以前の生活の場についてうかがいます。

１．施設等（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）　期間：　＿＿＿＿年

２．学校

３．在宅

４．その他　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問２　知的障害の診断についてうかがいます。

① 診断機関名について

１．病院

２．児童相談所

３．知的障害者更生相談所

４．その他　＿＿＿＿＿＿＿＿

② 診断名について　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

③ 診断年（西暦）　＿＿＿＿＿年

④ ＩＱ：　＿＿＿＿＿　ＭＡ：　＿＿＿＿＿　ＤＱ：　＿＿＿＿＿

問３　ＡＤＬについてうかがいます。

１．グループホーム等で、地域生活が可能　　２．施設内自立

３．支援者の言葉かけや見守りがあればほぼ自分でできる

４．半介助　　５．全面介助　　６．重介護（ＡＤＬ全面介助で、起立不能）

７．その他　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問４　その他の障害の有無についてうかがいます。

① 有無

１．有

２．無

② 有の場合以下の１～７で該当するもの全てに○をつけてください。

1．視覚障害　2．聴覚障害　3．言語障害　4．肢体不自由　5．てんかん（服薬　有・無）

6．内臓障害　7．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

問５　行動面の特性についてうかがいます。　（該当する全てに○をおつけ下さい）

1．多動　2．寡動　3．自傷　4．他害　5．器物破損　6．異食　7．破衣　8．興奮

9．寡黙　10．所在不明（徘徊を含む）　11．固執・こだわり　12．自閉性

13．突発的・爆発的行動　14．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

II．事例対象者についてのコミュニケーション支援

事例の標題　【　　】

見出し語（キーワード）【　　】

問６　現在の主な意思交換手段をうかがいます。該当するもの全てに○をつけてください。なお、複数回答の場合は主なものに◎をお付け下さい。

1．言　語　2．身振り　3．手振り　4．筆談　5．絵カード　6．写真

7．表情　8．ワープロやコミュニケーションエイド等

9．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

問７　コミュニケーションの面で過去と比較して改善がみられたかどうかをお聞かせ下さい。

1．改善がみられた
- ・特別な行動障害がない場合 ⟶ 問８－１にお答え下さい。
- ・行動障害があったが、コミュニケーションがとれることで行動障害の改善がみられた場合 ⟶ 問８－２にお答え下さい。

2．改善がみられず、依然としてコミュニケーションが困難である　（問９にお答え下さい）

問８－１　改善にいたる援助の工夫と経緯について具体的に教えてください。

例えば、独特の身振りの意味を理解することができた事例や身振りでの新しいコミュニケーション手段が獲得できた事例など

【改善前の状況】

【支援の視点・ねらい】

【援助の工夫と経緯】

【具体的な変化・改善状況（結果）】

問８－２　行動障害があったが、他者とのコミュニケーションがとれるようになったことで行動障害の軽減・改善につながった場合の、改善前の状況、改善に至るその工夫と経緯、その結果についてうかがいます。

例えば、ボディランゲージが確立したことでパニック行動が改善された事例

【改善前の状況】